

「お願い……っ、もう……挿入^{いれ}て、ほしい、の……、この……っ孔のなか……、
おもいきりいれて……ぐちゅぐちゅって、……して……え…っ」

涙ぐみながら、うわごとのように淫らな願いを口にした途端、噛みつくように唇に
吸いつかれ、

「ん”う”ッ！！♡♡♡♡」

ずちゅんッ！と体内に水音を響かせて、驚愕するほど大きなものが孔奥にめりこ
んできた。あまりにも唐突な衝撃に、それが壮絶な快感だと察するのに刹那の
時を要する。これまでの男たちのものもそれぞれにすごかったが、これは腹がは
ちきれそうなほど大きい。

「ごめんね、焦らしたりして……。僕たちを欲しがってくれる君が可愛くて、つい」

男は優しく詫びるが、裏腹に、腰を一気に引き抜いて少年から悲鳴を引き出す。
これほどの大きさのものが腹の内にあるだけでもかなりの刺激なのに、こんなに
烈しく動かれたら身がもたない。

「可哀そうに。こんなにびくびくして……」